

## 報 告

## 第 35 回日本義肢装具学会学術大会 (JSP02019)

広島国際大学 義肢装具学専攻 長矢 すずか

## 1. はじめに

2019年7月13日(土)、14日(日)に第35回日本義肢装具学会学術大会が宮城県仙台市の仙台国際センターで開催された。その印象記を以下に記す。



図1 仙台国際センター入口にて

## 2. 学術大会の概要

テーマは「挑戦・融合・革新～義肢装具のネクストステージ～」であった。このテーマは学会の理念である「義肢装具等の技術の進展と知識の普及等に関する事業を行い、学術文化と障害者の福祉の向上に寄与することを目的として活動する」と合致しているものがあつた。特別講演、教育講演、シンポジウム、パネルディスカッション、ランチョンセミナーなどの講演が企画されており、ロボットを用いた福祉

機器や3Dデジタル技術を用いた義肢装具に関する演題など、近年導入されつつある技術を取り入れた演題も多数あつた。

## 3. 学術大会の印象

今回、学術大会に参加して印象に残つた演題は13日の一般口演2「採型・3Dプリンター」の「3Dスキャナーを用いた下腿義足ソケットおよび切断端形状の定量的比較～切断端のコンプレッション値について～」である。大学の講義では、複数人が1人のユーザーを相手にソケットの製作を行うが、教科書に書いているコンプレッション値の決め方や、修正の仕方など同じように行なっても、出来上がったソケットは全て異なつた形をしている。そのため、毎回製作するソケットの着用感が少しずつ異なるのは、義肢を使い続けるユーザー側にとって好ましいことなのかと疑問を感じていた。しかし、3Dプリンターを用いることで、製作者側には作業時間や費用の削減ができ、ユーザー側にとっては、従来の採型方法よりもマーキング箇所のずれが少ないことや誰が作っても同じソケットを作れることで着用感の向上が期待できる、つまり両者にメリットがあると感じた。今でさえ、これほどに義肢装具が進化を続けているので、これからの更なる発展に私も加わりたいと思った。

## 4. おわりに

今回の仙台での学会は、普段広島で生活する私にとって遠い場所で、時間も費用もかかるために開催日直近まで参加しようか迷っていた。しかし、その考えが失礼だつたと感じるほど、学び得たことは多かつた。来年からは社会人になるので、この義肢装具業界を引っ張っていけるよう、学ぶ姿勢を怠らないうにしたい。

広島国際大学 義肢装具学専攻

〒739-2631 広島県東広島市黒瀬学園台 555-36